



於本館大人編輯
村上忠順大人拾遺

加
651

雅語得解大成

老翁縣書林

文華堂板



雅語得解序

言の奥に入らば
おも申さるる物
おも申さるる物
おも申さるる物
おも申さるる物
おも申さるる物



つらちいそ 舞ふいそく ちかきやま
あま子ひ乃をうらうら 鈴木 眼ぬし
さくら花 ちかきをさく つけはく
いと 涙も ちかきにあきられ ちかき
あまも 離屋 ちかき ちかき ちかき ちかき

もや乃とも ちかき ちかき ちかき
あま ちかき ちかき ちかき ちかき
いと ちかき ちかき ちかき ちかき
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき

をさしとくもさるるく
くくく物きれるけりよか
るにくとくえおくかたおのく
たあも時ハ又政之まめ及くさる
さるるさるるさるるさるる

雅語譯解九例

今の世乃俚言を俗語あり。古今集以来乃歌。
又古詞書の歌。又古物語ぶささどの。今乃世に
耳ふれぬ詞。或を詞を因トけれども。意ぞえの
是ふはふどハ。雅語あり。茶茶集以上古歌後詞
の歌。又古事記書紀小あ。ヨ守常の雅語よりも。
和耳を記詞を古語あり。是を古事乃諸史師の
注釋よりて。古語譯解といふものを別小著の書

庵一今あげたる雅語の中ふも此古語のこのハ
らぬもあり又を同し詞ふぐり老の轉りころ或
ち文字ご意異國語のまど里たるあど古借よ
里又れまことハ當時の俗語あれども今より
られず雅語ともいひつべし

○譯とは此轉語を今の俗語小あつるをいつふ
里一つ傳小傳あまことあるも何れ又まあまこの
語の一つ傳小傳るもあり

○解とは傳少て明しごとく盡しがこれ所
をぞ注釋の詞しごとくを云

○解より譯の便里よれる先師の古今を流
小傳せしれが如し此書ハ遠鏡小本づきま
とを先師乃注釋小しりて譯解を兼用て
轉語を部類して格討小便ありむ轉文乃
書を又世人参考の助けとあづかりもあり

○此書活語（カキゴト）を多く載せて、名目の語をバ多く
を省けはハ名目乃語を、注釋をど小又どよく
あつて、辨て紛る事も好むべけれど、活語のこ
ころぞえを紛らそして、新小字細を加へざ
まが、細の小を嫌むがとき有あり、すべて耳ち
かた細のまうやま、此ハ大方もら一つ
○詞を集る（ツグ）次弟（ツグイテ）いろはを用ふ、仮（カ）とよけ
まをあり

○詞を標（シラベ）るにハ、すつとたるハ語をあるは、まきり
あれど、譯の後勢あひづるとき、あふ盡くまさは
得あり、いの都小、いをけてとまうして、いとく
とはあげざるの如し

○すべて細ハ俗小回（カ）くても、意の異ある小ハ、こ中
ふんをつく、なわざあり、又一つ細の他小、俗語と
同意ふると、なあるとあるを、なある方のこを、な
せう、いとく小、シタスルと譯をつけて、俗（カ）いとく

とつと目ドこことある方をいふさるるが如く

○古今雅俗ふりこりてたがふゆりゆくをまじりて
一たるふたれ細多し。そいふてあげむ

○譯解の思ひうらぐときハ暫く後の考へをま
ち。或る細乃又おとく。それさるも多のるべけれ
む。それさる後の補ひをまつあり

○初學の^人雅文書をよむ時。此書を借小を考
へ見く。人ハ助とぬる事あるべし。若雅文を

うんとて。此書おこをとくへて授とせば。たがふ
ゆり多のるべし。すべてこまの細かあるんをえ
を。詳と解して。それれまへがこくさやし。雅き
事乃多かるを。そそきたる雅文を熟く小とく
又て。そある様小よりてぞ。ゆゆもし。書も一つ
解記さるありや

○今う世に假名書ののぶづのひを。大方誤り多かれ
ど。此書と引合する小正し。記うふをまじりて。い

かおをえゑの執たがふ事あるべし。初学の人を古言様雅言假字格等小しめて假字をたぐす

鈴木脛

雅語譯解

離屋鈴木朗輯

い部

いそぢ シタクヨウ

いそぐ 常言は間ド又シタクスル

いとあむ モクロム

いとあし イソガシイ暇かき

いとあまく 息捲あり怒てあらかふものつふさま

いとあむ 辞退スル承知セヌ

いとあむ キノドクナフビシナイトシイワとス

のちあり物狂ぐりを物
くさわーといふが如し

○いひまゝに

イハウヤウモナイ
ゴンゴドウダンナ

○いんごさあーいんごさあー

共小上と
同こと

○いま

タツタイてガタハるゑあり。追付テハ未来ニ
イニテニとも譯
まじ。これは現世の今をあてせて、ふかぐり俗語と
同ことあり。

○いまひとら

モヒトツといふあ
ところの今あり

○いづこ

○いづく

ドウイフトコロ
何トイフトコロ

○いづら

ドレド
ウジヤ

○いづ

ち
ドツ
チヘ

○いごいせん

ドウナルモノヂ
ヤセヒガナイ

○いでや

云
云
モミ

○いで云

イヤモ
ミドレ

○いでく

ドレ
ドレ

○いさ

ドウ
カ

いさや

イヤサさもかすむ。
トのいざとハ異あり

○いざ

アサ

Sameriの
いざあり

○いづーの

イツ
ニヤラ

○いのに云

云らん

ドノヤウニカミデア
ラウサゾミデアアラウ

○いのに

ドウヂヤ
て切し時

○いらへ

○いつき娘

ヒサウ
ムスメ

○いちぢやし

スバ
ヤイ

○いさげほし

幼き
あり

いさげ

若輩ニ上とらうらうらある詞にて。
れ回とあり。ばれ外ゆもあり

○いじし エライキツイ善き事
にも悪き事ふもふ キツイ
いじし ヒドウ
○い

○い ヒトウ
い キツイモンヂヤ
○い エライヒドイ

○いらあ ケシカラ
ズヒドウ ヒト
○いと シホ
○いさめ

フジヨウチ セイタ
セイタウ ウスル
○いせ セイタ
ウスル イヤウニ

○いぶせ 悪き物を見聞
心よりのぬきまあり 悪き事を思ひかどいて
ウルサイ シレキナ

○いのめ エラウ大
サウニ サウニ
○いかき あはれ
心あり 心あり
○い

ま 不吉
○いぶか フシナトクト
○い

た 手負病人を介抱するゆへ
大切にして念を入る事か 又
ワツラフ 病をもつ
我病を自りたる事か

い 勤功小なりて昇進
御加 せ
い 御加
○いまめ 御加

花ヤカナ ハデナ
メツラシイ いま免く
風リウ メク
○いひ ガタ

ヒニイ ヒヤフ
○い 功ラヘテ井ル
ヨク行届テ井ル ヨク
○い

センガナ イムダ
○い 女の兄弟を男よりい
ふ姉妹小か い
○い か

ひほ

ラチノアカヌ ツカひちる紀考ハ ナンデモナイモノ
今俗心つてをれと フガヒナイ といふハ即此詞あり

いぬ

ハ子イル ぬハ ヨコニナルあり
いとぬず 子ラ レヌ
いを

やまぐぬ

ユツクリト子イル いとぬとハ詞 別ある故ハ聞にてををの入

いざと

目ガハヤイ 上の為カア いま

そかア 又 いますかり

下ハけ い びつて い びつて い びつて い びつて

と少てヤんごとおれ人のいとかをいあておとすまけんあるべ
漢主ハ在しくありぬ又ハいままから少てさか い がるまこのかる

いので

ドウゾシテ ドウガナメ いとまのひほ テス キ

いぬ

タシヌカレルナ 剽抄ノ及 いたをま イ たり 尤ヂ ヤ

いほしも

時モアラウニ す べて 志 もの 心 此外も皆 今 トイウ今 同 ト又 今 デモ と 譯

いさかふ

アラソヒヤフ 俗語小大方同 さい ハ 否あり か ぶ ハ かせすあり

いづさにつけても

イヅレニシテモ ド チラフヘシテモ い きぶれ

いかる

行カリク 死穢ニアフ いうそく 有識あり又文字の

心をえかきて、堪能フガイシヤ
のりもあつ、ハサトなるものあり

○いらくぐ 寒き時鳥
肌立

○いどむ ハハリ
ヤフリ

○いもぬ 忌居なり、精
進してある

ふ をい ○いさよふ まはし、ふさぎ月
のいさよひ回

○いひそす

こはくひあ そふ、とき

○いくそづく

○いやえ イクラカ
ナボウカ

みある 月日をへても、思一さのちま
でいと、涙からあつさま

いや免のけーれ

ナシダガ
チナチイ

○いでぬ

デ井
ザシキ

○いやーうも

カリソ
メニモ

○いらぢるー

右ハツちちろーとい
へり、明白、著明あり

○いひけつ イヒコ
ナス

○いへとじ

儀内

○いさを

手ガ

○いさをし

勤勞出精の有さまを云、ハ
いさま、だけーの、あり

いさをし人

手ガ、ラモノ
忠勤モノ

ろ部

ろあう

云 論かくしイフ
ニオヨバカ勿論

○ろろささ

綴袂
の字

音よて、六
位の服

は部

はつめ

ワヅカ かまうふ
いさくうまふ

○はふきて

流浪
シテ

○を

あうん

俗のホカスホオルハ此詞の將なり。
ヤリツパナレニスル
ステモノニスル

○はえ

業をるく

花ヤカナク
ワイケイナ

○をうたふ

ツキモ
ナイ

思がうナイ
ツキホガナイ
ヒヨレナ
フツガフナ
フサウオウチ
フツノカナ

けうこあむ

コレハ
ヒヨレ

ナト人ヲ入ヲタウワクサ
コマラセル
セル
イチメル

をうた

ヒヨレナモノをうたふ
小同トまぐ竹取物

語

おん

イヨクコリヤ一萬葉三ミコト
けくふけいヤコウヒも
ニガヒと電線ん

タシハタ日本後紀十八宣命
常政有闕バカハタ神道
坊アリカハ此
ニツハ古語のま本ハ
影してのまこと同
一と田中道麻呂ハ
へり後

ハヌと同まよあま
り云くはハヌダ
ヤトテモコレモツテ
とよこころあり

○はが

遠慮
スル

おんか

イロキ
ヅカヒナ

○はう

ウチモナイ
ナンデモナイ

物アタラウ
定アタラウ

はう

ナニゲオワチヨ
トツイチヨツト

○はう

おん

シツカリ
トメ井ル

○はう

俗語ト同ま本ハ羽舎
まよたくとる詞

○まごり 本語考は後井マ 云こふ侍り テゴザリマス

云こ志侍り 仕リマス 云こふ侍り 物々の様こ

マツトマヘカ ワルイ ○はらぎた 先年

かー 腹ハ心と ○まやりか テアライ 云小回ト

○まて アダク ○はつ 数まらふハのこりぬ敷く

あまらつとよ シマヒ ○まぐりげん マツクラニナル 詞皆同と云

○はが ホツ

ひ 右左の羽根の行ちづひたるをいふ ○まらる レル

おのゝ束の煙トマ 同腹の足才後ハ ○を

らららー ツコシシ ○はらめく バラツク

晴 カラリトシテ并ル ○はげます 雨

○ま 額の度きやうの致 ○ばらぞく の音のたひ

激怒せー 母のこりぬ ○ま 祀母をいふ

むらあり ○ま ○ばらぞく ○七

ヅラク 字音とき
こもこも字ハ未審

○ちかおろむ 狂まら
根あり

○云こ

なとをあらては

まて
ケテム

○はぎにあぐ

ハ腫

あふぶー。本居翁云人小物を取ぐ
又するゆをかくひーあふー

○まきばか

云くホド云く
スルクラ井ニ

○むひ

カトグチ
遠あり

むひ

かど

ツイ
ワコ

に部

にこー スカ
又

○にくげ にくさげ

スカ又
風

○にげあー

不相
應

にげあ地不ど

フサウオウ
ノ年輩

○にやひ

香氣の外ニはむいとつふゆり。梅山次などの花
の名。又ハ美人乃かわの俗小愛き。ノダこがれる

とつやうあるゆをいふ歌あり。つふよいとれぬうつさのま
が質をもあるけけつをいふ。きれ。毛つやまふとを大。時

ふりてハ
いふあり

○にふふ

上のまあて。活
語ふあれる

○にやひやか

花ヤカ
愛こ

○ニの町

ニノ
キリ

○にがむ

ウルサ
カル

○に

よふ

ウラ
呻吟

○にふー

ムル井
ガヤ

○にくーこの

ニクラ
シイ

○庭もせふ云云

庭モ被シトハ身ニ云々ト云々
あり。道もせふ野もせふの扱皆同

後ハハ語リテ庭の字
庭の字母の字とせり

ほ部

ほのく

ボオツト曙
のやの回廻

ほのの

たーうあ
ぬさま

ほのめ

かま

ウスルクケブラ
ヒチシラセル

○ほど

位やも時やもあまもいつか時ふ
と云々するほどハ云々スル

ウチ

ほどにつけ

オウニ

○ほのげ

カレドノア
カリ

アシドノアカリ
デニタアリサニ

○ほろげづねた

ホトケ
クサイ

○ほ

ん

本の字ニ
テホニ

○ほくゆのめて

ニチガ
ヘテ

○ほくえ

む

ニツコリトワラ
フ

○ほどく

返表の時。モチツトテステ
ノ一ニ現を未来のと現。

ドウヤラワルワレタラ。殆字をホトドと
もむ。是は。殆ハアヤフキ。ま。チカキ。音あり

ほどくー

あやふく。莞束
ふきこころ

○ほい

本意の
字音

ほいあー

思ひこる。執の
せんがナイ

○ほろくく バラ ほろくけて バラくト ○ほだ

ト 邪ニ豆手 ○ほとりむむ チカ ○ほけ

ト 老ホレタ ほきたり とも云源氏 ほけく

はけさ トボケタ ○ほて 相撲の ○ほんむ

やう 性トク ○ないづ クチハ出スカク ○ほの

ら カウリ ほが サズニ表ヘダス

へ部

へつらり 石川雅望云曾丹集より二所見えたりへ ○へー

すゑて 同人云著聞集より見えたり ○へどつく 俚語の

○へた ハタ海濱をいへんと ○へつらふ

まこと竹取物語 おも見えたり 鈴屋翁云すては河がわとりへつ

と部

ところろせー

キウクウナ
バセニナ

ところろせく

ダ、ビロウ
仲山ニ

ところろせまきまぞ

オキバノナイ位ニ
パイニヒロカウテ

とくい

チビレ
が中

今商人の得意と云詞
即是由て轉りたる也

○とはい

常住

○ときえ

かたを

万代
不易

○とことえに

イウモカ
ハラズ

○と

き免く

時を得て用らるゝんハヤル
出頭
寵愛ニアフ又ム子ガドキツク

と免

かゝあふ

神寵愛ア
ワバズ

○とかく

ナンノカノト
イロクト

○とよむ

ドンド
ト云

とよみふちる

ドット一座ノ大
英ヒニナル

○とみあうことえる

アチラミタリコチ
ラ見タリシテニル

○とり

どりふ

メイクワ
ワクニ

○とのね

御夜詰ト
マリバン

○と

がふー

云かガ
ナイ

○とてこ

急トハ
疾あり

○としこ

精進
カチ

○とりあは

ワハアスル俗世のまよふ方同一俗世ハ愚
きをよた小ワハアスルのこ小用るを。雅心てハよ

きをあきふひな
ナ方小多く用る也

○どろもまじ

キイ

○とまこの

士

レバラス
ノウチ

○とだえ

中絶
トギレ

○ともすれむ

何ゾト
イフト

○とぶらふ

見
フ

とぶらひ

ミヒ使て物
を嫁するをも

ワふる俗語の
ヒ小すて同ト

○とお里さかーら

ソキカライフ又
セワ世者聞集又

ええ
里

○とこをふる

夫婦離縁
まゝあり

○とが里

鷹野

○とぢ免

ヒシマ

とぢむ

フシマ

○とアもち

て
ニ必死

○とりのご

養
子

○とる

俗小をてとる
あどつとるに

回一き
りあり

○とごろく

ドロウクとごろハ今ドンドと
ふが如く鳴林ぶるなどの意

○云くどち

何ド
ウレ

○とをく

ヒツク
あり

○時—もあま

時節モアラフコト
ガヤニサレ合セテ

○とめく

跡よも
ぬまるこ

ち部

ちぎる

ヤタソ
クスル

ちぎア

契ヤクさきの世の約束のム
の時宿世と云小同ト
シヤ

ハセ イシエシ イシヅワ

クワハウの心小あるまじ

○ちうまさり 迎くてこれをも 目よりハまさり

て、又ゆるまきハめ ても人をつま

○ちこのおとり 上のう ○ちおと

乳母 たり

○廳 役所 ○ちごどろ 石川雅望云沙石 集子尺えり俗

語小 同ト

○ちまむのま 一面ス コシ ○ちまかふ アチラ カラモ

コ子ニカラセ ラリニ子ル

○ち 暮まぢとあるハ 今つふせまぢ ○ちやうず

打撫スル又とがめせむるゆきも づハ懲ずるてもありんら

ぬ部

ぬまぎぬき

ムニツヲウチルぬれらもともふ。 ふるまぬるあていせお侍も又えり

○ぬのづく

ヘイフラスルぬりの額。 づハ衝つて地をつく ○ぬまごめ ナシ ド

○ぬるむ

水のなま温ふる。身のぬるむとつみ侍あり。 倦かこりてとけゆるやうをふべー ○ぬ

るー

源氏神の巻ふたがかの侍か 本をぬぎすべまじり。とある

るぬぎすべらかりて。きまぬをきせしやう くとつふる今俗 筆エヌキとつふは同ー

る部

る

族れくイチゾク
チスジ子孫

を部

をか

常語は同一か
かーとハ別

をか

遠きあきを
ズツトムカフアツチ

をち

アチ
コチ

をちか

アウチ
ノカ

を

をへ

時延てんイツ
ニデモセツク

をさく

シツカリ
トメ井ル

を

さく

大抵可ナリニをさく云くせすと下
がとつふ詞ある時をアマリイカフ

をさく

幼少の翁より轉りて人の若輩あるも又ハ
未熟少てラチノアカ又ころろあもあれ

を

氣夫
ナ

雄くー仁体よて云

をちのへる

アトモド
リスル

を

を

井ルスワツテ井ル居ありのつまりたるもの
りあてとまるるをハ下へつく時のことむ

を

ま

アホウ
ラセイ

をこめきて

ダウチガ
カツテ

を

を

をこハ本能優の裁むるめきをツひて憚アかくあめ
くてあきこぬむへききを善しり俗ニ尾籠とつハハか

アヒルヤレナス井サチナコシヤクナ

アホウラシ
イノニナロ

○をがむ

オジキスル 拜スルを
オカむのつまり

○を折れて

そを行よマカウテ
とよ雅語あり

○をこづる

ダマシテソ
ビキダス

○をこ

つひ
トヒ

○をのく

オロクブ
ルイスル

○をり

きあし
をりびん

ジセツガフ
ツガフナ

○をさ

こをうか

本ハ少男少女のゆえ特トてすての男女を
いふ又色情の支あるをいふことなり

わ部

わづあふ
ヤウク始テ又
俗語も同

○わさり河

三途川

○わくくばよ

○わまなく

メツサウニ
ムシヤウニ

ニムリ
わまなく

ナサケ
ナイ

わりなくおほ

す
ナサケナイ
コトニ思召

わまなく

ヨギナイサシウカへ
わりハことわり

○わづらじ

心ツカ
ヒナ

わづらじ

ル

○わろもの 未熟モノ
わろー ハキトせヌ
○わ

どの 廊下
○わさくー 表まぬ一分の内遣
○わさり

云々わさくーハあさりともいひて云々へことと云々がことと
○わきて わりあくてふ同ドと必あるサドきさゆ

をさぶつーとさーまあのらよ
あひてするころなり
○わさらの まがわらわらとハ笑のこりなり

ニコホヤトア
イサウラシイ
○わあー 若輩ラシイ初進ラシイ
○わさぎ まがわらわらとハ笑のこりなり

けく カウニノツテ
○わびー メイワクナナニギナ
わぶ カナシガル

わびー ノイワクサウニ
○わあー トセイ
わさー をのくくも同し又老人の

振い声小物い
ふをもつ
○わさー トセイ
わさー をのくくも同し又老人の

トセイ
イギ
○わすきぎー 先まぬやうのとみすのこ

加部

かこて 舞のカタアヒ手
○かづー カ
○かこド

けあー 勿体ナイ恐し多イ
○かけく 好色ガマシイ
○こう

ほ 容あとの十分ふとのひよりー
さまをまわとつぎまわらふ フデキ
○かる 遠の
○このま

がれ トホ
ノダ
○このれうふなる トホノギ
カル
○方

さる 場チヨ
ケル
○このうおひ 知らして形のいま
このうぬれをい

かま 上と
同
○かまー 此のくトタニツヌ 面白きふも
みの哀あふみのいとはーきあひい

ふこと
をこ
○かーづく 大のや
て巻よく
○このひあー かひハ
代

せニガ
ナイ
○かやまー 此かまけうとーりち
かーまのけい同
○かこ

ふ タガ
ヒニ
○かーじ
恐レオホイアリガタイ 又俗語と同
スゲレタ 恐レ入タ 意

かーこまる 恐レ
入ル
かーこまり 恐レ多イ後
ツ、
サレヒカへ しこ

○かごどか プテウハ
フダチ
○かごら フクイフイヒクサニスル
イヒタニル イヒワケニスル

其物ふか
づら
○かいたき時 其そのれ
時小同
○かごど かごちご
こかごちを

かろけい
カヅクゴト
かごとおふ フソク
ウケル
かごどをのりレ

申レワケ
バカリニ
○かぎり ホドシキリ
まこのかぎりの
まてノガ
あまは人のかぎりと
まのあこのぬれ

ナカヌウチハナカヌウチハこれ
ハ日比のかぎとあり
○かこまかこま〜
傍痛ま傍痛ま〜
きまきまの煩の煩〜

るのあををりるのあををりミル目が笑止ナキノトクナ
氏帚木巻ふ氏帚木巻ふしけぢうをねががとそ〜
○かひつかひつ〜

ベツ
カク
○かどくしかどくし
リハツナキハダツタキブシ
カドヒレノアルキマへ
○かひかひ〜

神神〜俗カウ俗カウ〜
テ井ルテ井ルとつよもこの轉りあり
○かど何かど何〜
ワキマワキマ〜
得ガ得ガ〜
○かか〜

たのどたのど〜
○かろびたる名かろびたる名
不慎不慎ミフ行儀ナ
ト云評判ト云評判

○かまへてかまへて 必必〜
○かこハかこハ〜
見苦見苦シイ片羽
フガフガフナフナあり

○かこへハかこへハ ヒト
○かまらかまらのの サツ
○かまかまを

假庵假庵あり
小屋小屋ガク
○かこかこ地地 アヒ
○かべかべ 夢
○かまかまむ

ホノカニ耳
ウチスル
○かてかて 云云かてハ云云〜
難難げとゆるげとゆる〜
○かか〜
カタテマカタテマ
半分半分の空の空〜

○かつハかつハ ツハカ
○かつかつ〜
ツロツロ〜
ホロホロカラカラ
○かどかどややか

〜
ツバユウハツバユウハ
ツカレイツカレイ
○かどかどややかかしし〜
云云ハツカハツカレレ
ココサウニサウニモモ〜

ナウ
云云〜
○かどかどやくやく ハツカ
シガルシガル
○ままがが糸糸
魚魚ももああ〜
婚婚子子せんせん

と心まうけまゝなる人し后がひが **がに** も同ト **か** カキ

垣間見るハその中待めて必垣間ふか **か** ツラ

○からうじて エイヤツト ヤウクト **○かしのほ** ヤカニ ジイ

○かじの ひそみのくられておぼろ心ときまも源氏物語 **○か** みカゴリとくまるとまてらあり

けつなき 兼官 なり **○かづけもの** 紫束ノ下サレモノか けハかづめせあり

○かたご 皮箱 なり **○かたらふ** 語合ふも カケ合フサウ ダンスル色事

○かたらひつく ハナレ合テナ ジニナリ **○か**

へりこと 返書 **○かへもく** クレグレモ ダンダント **○か**

○勘當 モツカン オトガメ **○勘す** 枕 草

○かけても 紙後者を動かすハ 家来ヲレカル **○か** ハニカケテ言テミルサヘモ

○かよわ カリ ニモ **○かんざ** アタマ ツキ

○かりひそむ かんハ頭へさし 面ざのさし **○か** から潜むかきこも 又引こめの敷え

契約スル色事

ノピワヲタノム

こめきたる ヒ子ツ夕風
○ 袂さびら 古雅十風

○ かへりまじり カ礼マ井リ
○ かうさく お上りらるる

○ かはせうえう 川敷
○ かどふ ぬすみて

○ かさやど カヤド
○ 楫枕 松中ノ旗子

よ部

よすが メヨリ所縁
○ よせ アツケ所
○ よ

ろくび カ礼
○ ようせず ワルウ
○ よろが

ふ ヨウトスル
○ 世のさが 世ノサノ
○ 世の

云 ムル井ノ云ク
世小 世ノサノ
世よも 世ノヨモ

○ よーあり ナラヒガアル
○ う

かむ アヤヲ
○ うりく 心得ガアル
○ う

仁体ラレイ 種姓
○ うある人 種姓
○ う

や ヨイハ
ヨイハ
よ とをかり
もあり
○云く この世
する世あ 時節

○よさけー 大サ
ウナ
よさけく 車
シウ
○よ

どむ トゴコ
ホル
○よぶ 夜
ベ
○よづのず 世とハ夫
婦の宿

いへどされば色情をあらぬ。又ハ男女かたし
よれともいふ。いふのありらるをよづのずト云く

○よた 夜ガ夜
カウ
○よくとあ オイ
トナク

○よそひ ヨソヒ
○よそほー ビ、レイ
リウ
○よさ リウ
ガナ

王 命バ
○よとくも木 アタク
レ常佳
○よろー 大テ
イヤ

サウオウナ 似合ハレイ
なほよきやとすハ俗

○よごもれ 世兼
又ウモレギア井ル

て マダ夜
ブカニ
○よとごち 夜ナカ
スギ
○よがき 通ふべき
夜を通ハ

ささふ 潮
よたとくさく
ヨクルワキヘノク

○よ 縁
下ノ
金バク

ゼヒト ホル所
○萩のホー 縁
下ノ
金バク

た部

ためふ

ミ合セル
チウスル

○たごふ

ダツレ

たごえて

サシツ
ヘテ

○たごる

手取こくし、たごきをさぐりて行くらん
ちよぬるをよ色くと思ふを云

○たご

たごし

不業内ナ
豊東ナイ

○まご

孫ハ孫ハと初々付ハア
ソバサチサル、とつる

孫へて孫ふる云くと初々付をせめて、我方の
上を以て初々仕りてヌイタシテス、小當也

○まごたふ

云クナ
リトモ

云ク
サヘ

○たごしへあ

イハウヤウモチ
ウエラウヒドウ

○たごし

クワニタイナ、イカッナ、フス、ミナ、先師云、たごしへあ、り、たごハた
ミミ、不心あり、雅望云、たごしへあ、り、き、なり、怠りたごむことあり

○たゆ

イタル

○たゆむ

ユダシ
スル

たゆめて

ユダシ
サセテ

○たゆ

ルキレ

○たゆ

アヒ

○たふ

コラヘルモ
チコタヘル

○たぢろく

グラ云

云のたぢろく、お

ユダシ
メキニ

○たぐずむ

まとまり
わらへ

○たぐずまひ

たぐず
之家居

どのたぐずまいハ
テイタラク

○たむ

田舎人の物
声の酒を云

○たのむ

チカラ
ガマシ

ウ思

○たのめて

教よせてタノ
ニ思ハセウ

たのむる云

タノニ思
ハセル云

○たをやか

ニシ
ナリ

たをやぎた

ニシ
ナリ

トニテ井ル
たをハ擽ク

○たわく

○たをやめ

ヒメゴセ
擽弱如と

いふ

○たむけ

馬の鼻向のりとも
云々語ハセニツ

○たつきあと

本をきる声ニ
モ廣刃の斧云

○たをむきにて

カリ
ニモ

○た

もむれよ

メツタニシヤウ
ダニモナラヌ

○たむかる

クメ
スル

○たてまつ

たてまつ
セ給ふなり

○たつもけ

ぬるもたし

立テモヒヨシナモノス
ワツテモヒヨシナモノ

○たけし

利運をよめす
たるゆ等のん云

たけきる

デキタ
トテハ

た

けろ

アマリデキタ
トデモナイ

○たけあ

半す
春年夜日

等

○たいおやう

急状
マヤ
マリ證支

○たいせち

大
切

○たよ

幸リカテガ
便タ寄の心なり

○たぎつ心

ワタセク
思フ心

○玉れ法をのり ワヅカ
○たゆふ ウヂウヂスル

○たぶさ 物をよつろふすもの酒をふさハ
總ぬふてよふとをすぶるをいふなり
○た

づき テガ、リ
コシナイ

れ部

例あれたる 例ハ捲式
作法
○例やう 常テ
○例

あぶ ゴフ
レイ

そ部

そこら オホク
そこをく オホク
○それのこ

ソノ昔イセニ又ハむくの事をい
ふついでソノセツとつふ時を
○そこはうとあく

ドコヲレヤウド、イフコ
モナクナニトオウムサト
○そいぶ 子マ、
トギ
○そ

ひふす ヨリカ
カル
○そむづさひ けハ、ヤヤそま
山道づゝひあり

○そバ 不和あうまま、不和あう者正め
小ハ向穴を、儼目小ころ故

む ワキ見
スル

○そむらつき

ヨコ身ノ
アリサマ

○そむらに

何トナウ
△サト

○そほづ

ヒヤク
ヌレル

○そくのかき

スニメル
オタテル

○そくや

ソクと取
ヒコトモク

○そほぶる

雨のシヨボク
フル
フツム

○そきうなぐり

源氏花宴巻公事にそきうなぐりなるミ細そ
ハハ公方の御用かともハ出つてのうがえ

てかられ
おるを云

○そぼる

ソ、カニイと
ソよ通し

○そくおぢれ

ソラト
ボケ

○そら目

ミソコ
ナヒ

○そよぐ

ガワ
ツク

○そびやきたり

そびやらのうにたれり
セイガキヨイトタカイ

○そ

びゆ

ヌウア
ガル

○そよめく

サウ
ツク

○そむく

レタ

○そごろさむ

ゾウツト
サムイ

○そをぞ

ホ

フテナ
リトモ

○そよ

ソフコ
ヨク

○そこひほ

極めて深
きをこ

○そでつくまとの

袖ノサキガチヨツト
ツク、ライ
浅き

つ部

つ 舟フネ ○つと ヒシト名目 ○つばらま

つたたる山道、鞍馬の山坂の名目もあれり、今俗よ ○つらホ、カラ

イバ ○はと免て 早朝 ○つどふ ヨリ ○つも

ま タ、 タ、 ○つゆなつゆとも ○つあえ

す ウカハサレル ○つまね レラヌカホシテ井ル ○つうさ

とく タイヤ ○つまね レニ井ル ジャウ

ガコ ワイ ○つきあーつて 心ハタマフ子氏ムリニカレテカ

○つらー ムゴイ ○つかしまつ ツトメル

○つどふ アウセル ○つあびく 引ガリ ○つどしる

本語ハつてハよつて ○つまね アフ

源氏細流よ ○つきあー ツ、フヌ

○つどふ ウマ ○つきあー 合シカラヌ

不相應ナ
フツガフナ
○つきあう〜ん 云
ツニリ
ヨウ
○つたか

くて
ヒヨニナ
デアツテ
○つづく
ニル〜と持する時つぎハフ
が〜と持する
コ〜と持する

時つぎハフ
ぶきあう〜
○つづく
ニル
○つむ
ア〜む
ア〜む
ア〜む

く
○つきあう〜
ツ〜合フ 目引
袖引するまぐ
○づーやの

心してづーハ厨子ウ
○つやく物もみえず
ア〜
リシ

カト物モ
こエヌ
○つと保き身
因果ナ
身ノ上
○ついでつ

いえ
弊のまよ〜
あこま〜
○つきぐし
ニツコラシ
イ
むらレイ
○流

やこの
ハツキリト
あざやう〜
○つきせす
云
か〜とかく〜と
ツ〜小同〜とある者

○つぶやく
俗めと云
小同
○つぶさ
メイ
サイ
○つき

○つむく
タイ
ク
○つまりぬる

契沖玉猫の爪を〜
時のやう〜するを〜
○つらのま
チツト
ノ
○つ

づゑ
ホ
ツ
エ
○つまは〜たす
ふくき物〜を見
ず時のあ〜をり

ついで

築地

○ついでむ

啄とかくつ
き食なり

○ついで

ミヤ

○ついでま

続松く手シヨク
松火タイツ

○ついでふ

償

○ついでの云

始終
ま

ぬ部

ぬん

シレバウメコラヘテ
又ガセイヲタシテ

ぬん

コラヘ
カ子テ

○ぬぢけた

心のまじり
ぬと云
シヤヤ
ぬと云
シヤヤ
ぬと云
シヤヤ

空蟬巻小魚形の無難なるを
採ぢけたる所を

○ぬびま

年のふけてと
ツミと契沖

○ぬこ

ウラニ
クイ

ぬたむ

ロヲレガル
ニクガル

○ぬび

たつ

生長して形をどの
よく揃ひたるを云

○ぬぎ

犒之慰
勞

○ぬ

ぎこと

神をいのる
願しむ

な部

なづ

シタレウナジム
古語をハウキタ
ダヨフ

○なづ

コレカラダツク月日
ヲヘテ行末ニテツテ

○ながらふ

年月ヘテモジツト
シテシナスニ井ル

○あ

げのえ

ザツトシタミ
チヨツトシタミ

○なほ

ヤハリマダ
シテモオカクニ

○なのさけ

恩愛ジヒ心
風雅ナコ、ロ

なさけあ

キガナイ
ウリウナ

ムタ
イナ

なさけくし

子ゴ
ロナ

○なふく

ヨワク
グニヤク

な

よ、か

ダニヤリ
トヤハラカ

なよびう

ヤレワリ
シチヤカナ

○なごのむ

ナガメル
ウツトリトノ井ル
又歌を
くたふるくさるな
詠の字をよめり

○あつこの

スイタ
チシヤ

カハユラシイ
アイソ
ラシイ
又俗語と同じ

○なのく

ケツク
ナニナカ
ト小にも
のあもなきも同じと

○かまゑの

フウリウナ
シチヤカナ

かまゑく

セヤラ
ツク

なまめだか

タガヒニア
ギチヤル
シヤチツキ合フ

○あのみ

シカト
セヌ

かのか

ナ
ハナク云く

○あま

云
云

赤熟
ヘカタ
のままり

○あま

コハツ
カシイ
あま

あま

同上

なまをゆ

同上

あま

まー
コメンダウチ子
クト心ヅカヒナ
ハ教のあまといふハドウ
ヤラ子ワタリと云心あり
○あ

まくの
ナ中ノ
ヘタナ
○あまんある云
ハあまんある
云の五文字へかく

○あま
シヤクナミ
○あま
フサホ
フナ
かめげく
御無礼
ラレイ

○あま
シドケナウエと云
る中ありあまといふ
まか

れど
○あま
其名ニ持テ并ル又
評判ノミ名代ノ

心おと用ふ
○あま
陸進すこあり
ヘアガルニダス
○あま

アコリ
けの砂りたるを云
○あま
トゴ
ホル
○あま
人を侮るこ
シコナス

何ホ
何れと
ナニヤ
カヤト
○あま
キバ
ラシ
○あま

○あま
心ガハレル
ム子チラス
あま
○あま

ほこと
あま
○あま
通切ノ身
カラノ仁
○あま

えあ
云
ナニノモナウ
何ノザウサモナク
○あま
其名デハオノ
イトイフキデ
あ

す
ダマツテ
ハエ井ズ
なほあ
云
云
○あま

ほあ〜どごや

ダマツテモ井ラレナイ
トギリヘンコトバ

○あごや

の 柔和

○あごらの あごやうあ
るたま

○あまごひ

に ゼヒナク
一ゲテ

○あでふゆもあはれ云

云 ナンデモ
ナイミ

○あべて 一統ニ
一トホリ

あべてあ〜ず

一トホリ
ナラズ

○あ

か〜ひ

縁家ア
ヒダガラ

○云 云 あれを

春あれづく春デ
イハウナラあり

春さればと
まことへ

○云 云 あべに 並はるそれと
同時小あり

○あにが

何ノタレワタクシ
ソンジヨソコ

○あず〜ふ

ル 准
ビ

あず〜ひ

スコシノ
オトリ

ら部

ら〜し

功者ナカウノ入ッタ、キ
勞ハ仕官の年功のことあり

○云 云

ら 見び〜らハナレギサウニ
ありきの〜らハ
リコンサウニ
えき
の〜らハカシコダテ
云〜ら
云〜ら
このらもそれと同ド

○らうた〜

カハユラシイムゴタ
ラシイ 骨ツ〜

○らうがはし

ムサクサトラウシガナイ
ガヤクト
ヤカニシイ
物ニ心得功
者ナル人

乱かきしとくすく

○らうある人

む部

むくつけし

ミグルシイオウロシイ
キミガワルイ
尾張の田舎の詞ふムツケタト云即是あり

むくくく

上ノ
同
○むとく
無徳
あり

○むつ

かる
ハラタツ
イリクム

○む祿つぶる

キガモメル
タウクスル

○むね

をつぶす

キヲ
モム

むあつぶし

心ツカ
ヒナ

○む

祿しる

キガイ
レル

○むつし

むつしげ

ムサクロシイ
メニダウナ

○むげふ

一向ム
クニ

むげく

一向
ジヤ

○むぢん

無心
あり

○むご

石川雅望云無期
おイワマデモ

○むね

と云
オモニ
云く

む祿とある云

オモナ
云

○む祿

む祿しるぬ云

オモダ
又ま

○むのひ火つく

向ひ大を付る人の後立
付。我も後立てむふまをりふ

指のつよくふ
かざるをりふ

○むす

生するれ古語。草むす苔むすハエル
あり。むすこむす免のむすも同意

○むかひ

テグラとよ俗語も。植松有信
云。手對のちつりあるべし

う、部

うけを重て

オレハ
レテ

○うゝてあま

イヨク
ワライ

うたてある云

ヒヨレナ云々
メイワクナ云々

うたて

ヒヨレナ
ヤ重クア

リニ

○うもれいとし

ウレレデダニツテヲ
レバキウツシテワルイ

○うちつけふ

ウツレニサウキヤシニ
ノフトレタ思ヒウキデニハカニ

①う

いろこ

ウレロダ
テ後見

うしろむ

トリ
モツ

○うしろ

めこし

後目つとまきウサニチキガユル
セヌ手放シテハアンジラレル

○うしろや

すし

キヅカヒダガナイ
まろめししのう

○うるそ

キツト
井ル

美麗の心をあれとも
中古小淋して世は

○うるはしむ

中ヨウ
スル

○う

つーろろ シヤ うつー心もな 正ダイ

① うとまじう思ひある アイサウ ① うし ガツキル

ろで ウシロ ① うちとける 立入 うちと タ

け ゴト ① うるせく キウトヨロシウ

① うらもなく 何ノワケ

① うけふ ノロウ ① う モノウ

けひく 兼引 ① う ツベラシイ

① うすづく 源氏権巻

① うかびて グカ

① うら ウイ

① うら ウイ

① うら ウイ

ウキ

立入

タ

モノウ

モノウ

ノロウ

ツベラシイ

源氏権巻

グカ

ウイ

ウイ

ウイ

ウイ

○うちく

ナイ
ナイ

○うらえふ

ヒタス
ラニ

○う

かくし

ハヅカ
シイ

○うんず

アイサウツカス
セイキラ
ス石川雅望云うんはうこ

今も東國人ハ物ハあきたる
をウシハテタと云る

○うかお

男女小通して
童形をいふ

○う

らやこかし

ゴドウゼニ
鈴屋翁云我し人とのうをうと
又ふ人のまされるうとなく我し同ト也

をうと
とバきり

○うつての人

源氏物語湖月師説まづも
なう人とつふとあり

○うつとー

アイラ
シイ

うつとーむ

カハユ
ガル

○うまぞひ

ロツ
キ

○うらぶる

グニヤリト
シホタレル

○うらま

うらまびーうらかきーうらやまー
云のれのうらハ皆心中のとあり

○うつろふ

移く花紅葉ハスガレル
子ル本草ハ
色ガハル人の心のカハルをも

カ、部

居立てのけふ

カ、ウテ井テカ
セワヤカレル

○おて

率をア
ツレテ

○おどけ

坐したる
とけ

○かざりいづ

居去出俗
もいづ

○かふのまゝひ

田舎通しノ
スギハヒ

○かまちの

月居待
多り

○かて塘

○かせき堰

の部

のくゑる

ヤカニシウ言タテル
又仰山ニシタテル

○のどええ

シヅ
メテ

○のどかのどやの

シヅカオダヤカ
コロシヅカ

○のまも

の賤

○のいもがとあ

逃るち
またく

○のり

き

秋の日の
暴風

○のへふす

偃のままよりのへへままくく
子ルへトままの如くとあふ

○朧もせふ云

野モセハレトニ
庭もせふの下ふく

木部

おろごか

オク
病ナ

○おひまどをん

行サキヲ
ウレナフ

○おろろす

我ハヨシ能ぢ人を
あと小のこまん

○おもぎひ

小児の人見レリ
入オメテるを云

○おもてぶせ

ツラヨゴシ
フクワイブ

○お

もておに 外ブン
ヨキダ ○おうかく云 分別モナ
ク云

○おぢろけ 一通 ○おののぢ 各と因ミ又イ
テシデニ

○おぢけし 飢けかーをオふナれた
るゆへ ○おもふし

アツカ テシホノ皮ニ
オモクマシイ おもふく云 おもふたさ

ま ウテヌ
白ツキ ○おれて かろけてのつまりあり
タボウテ
ウツヌカシテ おま

お バカ物
けもあ おれし ほけし
か同 ○おもひぐ

まかし 思ヒマリカナイ
考ヘガ行トミカヌ ○おふかく 分相
應ニ

○おろし 大ヤウナ
ゲナイテイ ○おろし シレジ
ヤウニ

手ニシカウ 仰山 ○おどろし ナ ○おそし

ナ ド ○おそし おそほし

皆同とて女的心づ 大ガイ大テイ
表ムキ一通リ ○提

よくよあしきを云 てつろと活らく物
付るをも又心中
小是快するゆを云

擬の活伴ふ
ありとらふ

○おぼしあずらふ

同格ニオボシメス
は秋のおぼし云

思ひ云くといふ相多し。思ひ
おぼしを下小つけてんぬべし

○おそす

ゴガ
あ

をささるす

おもそすあり
ゴザラセラル、

○思ひあがる

キヲ
高ウ

ウモ

○おしあべて

ヒキクルメ
テ一続

おしあべた

らず

ナシク
デナイ

○おぢえ

思ひまあり
上ノオボシメシ
又世間ノオセハク

○おぢえず

思ヒカ
ケナイ

おぢえあし

同上

○思をばく

存外

おもそすあるる

大ヘン
ナコト

ナシカ
ラエ申

○おぢささ

ヒト、ホリ表
ムキヲホザリ

○おもしろ

かろらう
のうし

○およすけて

小児おつふ知
ヒト
チリテチユガツイテ

ね

よすけのあふ

オトナシヤカ
ニ仰シヤル

およすけしぬる

事しをいもぬぞしぬ

小児のコマシヤクレタ
を制する相あり

○お

あし

おむらしあむらしハ種々あり。をのしとハ別を
すべく差敷すべきさ刀を云
オモシロイ
スイタフウ

○おもたぐし 面立しあり。外は心。面伏せあり。らめて。面かこし。こといふ。小同し。

○および 及ビ ○おちどろ 大やふらぶら。のぬらあり

おほか 大ザマカエト 本小同し言く ○おちどく アトウウト リシラヌ

大どろの活語 小あり ○おぼえく おぼろめくあり トボチカホスル ○お

がほる 上と 同し ○おろの 大らう村し。おろろ。つまうて。おろろ。物すな

天テイ 小して。あまり。こころ。ぬすんがれ 小黒の心もふるく ○おろろあ オロロカワロツコイ

らず 俗小云 小同し おぼろけあす 上と同し。ナニ 大テイテナイ

○おこたる 病勢のゆるま るをもいふ ○おころこ フラチ アヤマ

リブサタ ブサタノコトワリ あやま 足説文を急状といふ。こころ得べし ○おきあび おきあびする

あ 年寄ラシ イコワ子 ○大とのごもる ギヨシ ニナル ○大

殿ごも オヒルナツテ 鈴屋公羽云。花の ちるを。嘆ちるといふが如し

○おもひごまふ オモヒヤ リガナイ ○おもひや

アおし 常にもしふ心のお小思
ひうけまねるをもま ○おやす 申し付
ルオホ

せ付ラ 取ハカ
ラフ ○おこあふ 取ハカ
ラフ ○おびゆ ビツク
リスル

○おぼろあー シカトシレヌ
コノモトナク
マナドホナ

○おがえあー シカトシレヌ
デブアレナイナ ○おのま ワレ
ラ

ワタラシ ワレラガ
相者ガ ○おのづ 存念ノ通ニ
存ブレニ ○おづる こそひいざ
あふあり又

ソノハウ ○おもふさまに ○あ ウチデモ
ソトデモ ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

ワビキ ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

ダス ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

臆病 ウチデモ
ソトデモ ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

オクノホウ ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

ヒツシテア ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

ソレサウオウニ ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

ネンゴロ ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル ○あ ハエル

おくとぬと
ネルニモオキルニモ
おさうに

オキトモナイ
オキワスル
おーいる

アナイナニ
おーおびて
おーさち

ハイル
おーおびて
おーさち

ワキヘグテナニ
おーおびて
おーさち

ドレコレナニ
おーおびて
おーさち

エニリヨナニ
おーおびて
おーさち

アマリキツテ
おーおびて
おーさち

コソリアフテ
おーおびて
おーさち

をるハ 老クツスルを思ひ
をるハ キヲクワラカス
○ せがくる
月の雲隠
たてて人

の足えずかるをいふは世ハ死るゆふ限れど紫式部の
頃までハおもあはれ存生の人の列をもちて
○ くら

す 腐すを思ひ
○ くら
かくれさる
下こさる

○ くはあ
メイサイナ 隅カラ隅デヤラヌノカサズ
くまハ隈ふてかゝる不なれをいふ

○ ねを
エミラ子ガアカヌトハギレミガナル
ニガクレイノコリ多イザン子ナ
○ くら

らへがし
ドチラガドウトモイヒニクイアヒテ
ニナリニクイモテアマレタコトヂヤ
○ 四十一

べぐじし トリニハ シニクイ ○くす 佛添クサイ 神サニクサイ ○く

だぐじし コザクトシタコ ドモクニハ神ニ ○くさ くハ屈ニ ハクニハ

ダメサレ アヒダノアイサウ ハナシノツガマヒノイヒクサ ○く ハクニハ

ルイ 肩身ガスホケテワルイ ○く キガ屈ソワ ○く キガ屈ソワ

ル コマ ○く あまのこころハイクニナカク ハクニハ

も件ハ志ガの心とてく ぐりともよめぐり ○くれ 怒傷の甚しくて

ル いふ ○く 功ガ入 テ井ル ○く くさむす

クサガ ハエル ○く 是ハヤの時ク俗ソリヤ とつふガと

とよひうら ○く 孔子も好く 生凡生モ

弘法モフアノ誤 ○く タボケル 義經記ニハ

あくと 朝暮 ○く 座セキガ ヒクイ ○く

くつぐり めぞろぐり その物も ○く

ヤノ部

やすらふ

見合ハセル
主トマル

やぶく

スケサニサツツク
コレガスナハチトリ

モナホ
サズ

やど

屋外多ク
殊シユク

テイゼニヤレキ内

ヤどりあり

ろれ

やんぢ

各別ナガがくあどのことおすぐれ
たるをりヨンドコロナ一モダシガタ

イナ

やをら

いりりこつてくつよう
らぬまソウトソロリト

やま

ぐら 物のモード
めをりよ

や

よひうらま
又おどろくあり

やおき

ヤイオ
ノレ

やつと

忍びて出ま時軽く分るらへを
し。まうまのり物よのるをりよ

や

つる

形のヤセ衰ふるく又
カルイナリニナル

やつし

貧一ま
さまこ

やう

く

段々ソロくろれハやくの勢
イロクソソくろれハ様この字音

藪原

野原草原
藪の字の心大

扱々あて。俗小竹やぶをたくふやぶといふ故小藪の字をや
ぶといひハ誤といふ者あり。雅語をちかぢやてあやま

や

まぶしの身

僧の自り
ことむく

やま

かやま
まじり

やすかぢ

キノ
ドク

やまかぢ

心外
ナ事

やさか〜び男

心外ガル 心きス
ルキノドクガル

○やよけれバ

ヨケイ
アレバ

○やるの〜

物思ひの暗〜
やうのちんこ

○やぶ

さこの

レワ
イ

○やさ〜

恥カレイイウビナ
打アガツテ并ル

○や

さ〜むむ

優美メ
カス

ま 部

まいて

ま〜
て〜

○まことや

ホニニオ
オソレヨ

まこと

ふ

とよい
〜り

○まほに云

ロクサマニ
〜本式ニ

○まろ

男

共ニ自稱詞ニサ〜ハゲ〜ヨウ〜ヨウ〜あり〜の
世男あり〜バ 此方 女あり〜ハ コチヤ といふごと〜

○まろ

かす

まろ〜
小回〜

○まむゆ〜

カ〜ハユイ位ニ結構ナ
フレンヂヤハデナ風

ハヅカシイ
ウルサイ

○まこ

目ツキ
目見〜

○まかあふ

トリツラ
ロフトリ

マカ
ナフ

○まねる

参上スル サシアゲル
メシアゲラレル
酒食ありゴ着用アル 衣服あり

○まかる

行ありイウ 参上
イタストホル

○まさか〜

ムホ
ウナ

またさぶら

小児の遊びの
やうなものを

○またさぐり

が

ハ狂
又禍

○枕ざり

引コト
イヒクサ

○またさぐり

ミクウ井
又常々

司

○またぬぶ

口上をききまふの
有難きをきかざるを

○まため

シ
シツテイ

またえやの

シツツニ思
ヒコシダ体デ

またえやの

小
ウハ

アリヤ

またえだつ

トクシツニ
モチコム

○またさ

何
ソノ

○またどう

メイワクスル
タウワクスル
顔敷ソラチモナイ
体ニナル

あまどう
思ひまじ

ハトホウニクレテ心
ガムチヤニナル

○またとぬ

クルマ座ノ
ヨリ合ヒ

○また

なろ

人魂の形をあらはして
又行たき所へりとして
又行たき所へりとして
又行たき所へりとして

○またつはる

マキツクニタシ
ウツイテ井ル

○またつを

オソバサラズニシ
タニウチサレ

○またほろ

ロクサマデハ
ナケレドチ

○またまね

ミスル
体デ

○また

マタホ
カニ

○またの日

翌日

またの年

翌年

○また

源氏
物語

蓬生卷小見えり。乳母の母を母のゆを未詳

○まけだまーひ

イヒガ、リ
デヒカヌ氣

まけどーろ

上小
同じ

○まほして

ナホ
サラ

○まかりあし

イトマ
ゴヒ

○まろーひら

申レワ
ケスル

○まろづし

サウク
シイ

○まろと

キサ
○まろづ

三井凡 但一此方へ
糸る小いふ細く

○まろのが

る
糸りのざるあり
アガル糸上スル

○まろけの物

引出
物

○ま

さぐり物

モテアソ
ビモノ

○まだま

ビマハ

○まど

一
メナ

け部

けどか

けさぐりげのけえ氣の字音小あらず。漢語と
自然にお通符合したるく。下の七条皆同じ

○けどほし ○けぢのー ○けと

ー
うとまうーく 思え
るーちかまう

○けあし

ふうーハ心かく
ーのゆー

○けざやの

ハツキリ
サワバリ

○けざやぐ

上の詞を
溢かす

こる ○けおさる

オサレテ
ミエル

○げふ

ナルホド
イカサマ

○けじし

テキハキト
シテ井ル

○けをひ

ヤウスソブリ
ケブラヒ

○けーたむむ

ケブラヒヲシラセ
ルキモチヲミセル

○けやけ

キハダツテハ
ナハダシイ

○けぢらめ

ワカ

けごせ

襲ハ
暗の

うらとあ
けとる相

○けーうハあす

けーハ
イフウナ
るさあけし

ハあすハワルウモナイニクグニウモナイといふるを又將
ドてのりてけしきりをもつて。即俗ニケニカラヌといふ心あり

○けいめいす

字音あるべし。經營又敬命などの字をあて
これどまきもときこもまど。文字ハいこのあ

んら ○けーたとる

キゲントルまごケブラヒヲ
見テトリスヤウスル

○けあがる

逆上
スル

○けちえん

摺寫ニカクシ
ナウハツキリ

○げせう

あつハカ
るまじ

○まこけふ

まこよりす
てまきあり

○けぬ

キエル
ルヌル

○けつ

ケスツハ
けつハイヒコナス
まけたるハオサレル
あり

○けさろ
假装之ケシヤウ又慮
慕之繋想カ懸想カ
○けくら
きよ
らき

唱へよよ
て誤まる

ふ部

ふりそく
云云
ワザク
○ふりさけ
ツフ

トハルカニ見ヤル
ふりハ發
語さハ遠ガリのさけ
○ふびん
不便の文字あり
フツガウナ又キ

トウナ不便あり
ふん俗ハ憐むん
○ふるさつ
旧都
荒郷

荒宅あり
ハミをよめるあり
○ふつか
トコエテ井ル
持

トイヤキんよあり
時俗語小同
○ふさぬ
取撫る
スルヒツタルメル

○ふさや
フツ
サリ
○ふさに
タクサ
○ふく

つけし
ヨクダ
ウシイ
○ふくいと
顔色のいとく
ろきをよめる

氏又桐章
紙小あり
○ふささ
似合又
相應せ又
○ふ

くごむ
掃けづぬ髪
ホウク
たをを云
○ふくよ
ブツ
カリ

○ふーめふある

ニホトナ九 借

○ふーめ

く バタ ツク

ふー

バク ちの母をき又

○ふー

のへる 子ガヘ リスル

○ふる

○ふる

厭きて又

○ふる

○ふる

ル リンキスル

○ふす

○ふす

○ふす

○ふす

○等ころむ カキヅ メカク

○ふみ

○ふみ

○ふみ

○船よそひ 船ゴシ

○船よ

○船よ

○船よ

○船よどこ 船の洋る

こ部

んおどり ゴロ

○こよ

○こよ

○こよ

○こ 子こ

○こ

○こ

上と何 大ボコナ

○こと

○こと

ち ヤカマシイ

○こ

○こ

○こ

音今 **ブコツナ** とし
これを音ふとる

○こうむ
困むあり
クヌヒル

○こ

ろつとせ

キヲモム
セイツカス

そろばじし

シニキ
ナリ

○こ

ろもで

そまじそも衣あれ
バ同一そをあり

○こくらそをく

評多
あり

○こーらふ

ナダメル 取ナス
スカス スメル

○こーこ

此
度

○こゆ

越ス

こす

コサセル せんハコス ーじくこ
を自然の細子ハ使れぬ

○こ

とあを

トテモソノ
クラ井ナラ

○これぞこの

云
云
コレ
ガカ

ノま
シヤ

これやこの

コレガカ
ノまシカ

○こすはふ

シヤ
ウコ

リモ
ナク

○心もとほし

待ドホナ 又物のナカありて満足
せぬもあり又俗ナクこくウサ

心も有

○このもかのも

もハ面あり
アソコヤコ

○こつけ

て
カツケチ

○ことづて

傳言
ま

○こころあ

く

キヲタテル 用心スル
ケル 又常小つ小固ーきりも有

こころあこのる

キガコ
九セ又

○こがつ

コハ
ス

こがる

コハ
ル

○ことくじ

ナニソト
イフ
ナニソト
ツケテ
○ことある時
○ことある
○ことある

ナニカニ
○んのおし
○ん
○ことある

ムナサ
ワギ
○ことある
○ことある

○ことある
○ことある
○ことある

○ことある
○ことある
○ことある

○ことある
○ことある
○ことある

ワザト
バカリ
○んあひ
○ことある

○んあひ
○んあひ
○んあひ

○んあひ
○んあひ
○んあひ

○んあひ
○んあひ
○んあひ

○んあひ
○んあひ
○んあひ

○んあひ
○んあひ
○んあひ

○事一

○ことある時
○ことある
○ことある

○んのおし
○ん
○ことある

○ことある
○ことある
○ことある

○ことある
○ことある
○ことある

○ことある
○ことある
○ことある

○ことある
○ことある
○ことある

○んあひ
○んあひ
○んあひ

○んあひ
○んあひ
○んあひ

○んあひ
○んあひ
○んあひ

○んあひ
○んあひ
○んあひ

○んあひ
○んあひ
○んあひ

○んあひ
○んあひ
○んあひ

○事一

サシテ氣モカ、ラズ
キ、タウモ思ハヌ
るんもありナ
ニノヲモナイ

○るも邪し

邪あきし 申レズ
ニガナイ 容易ナ

○ころろあやほし

コメレダウナ ムシ
ヤクレヤトスル

○ころろあやほし

キノドクナ
イタクシイ

○ん短し

キレシ
カナ

○んばきさか

キニクハヌルジヤツキお死
りとも不思議を云

○ん

づ

ジテ心カラ
ぶらぶらの舞

○んのう

心ノウ
ラナヒ

○ん

小入

ころろあやほしと思はるる今キニイル
といふ相づれより出て替したるなり

○こそ

人 余

○こと不ヨ

○こと物

外ノモノニヤ
ハ異なり別ニ

○このわど

コノセツ
此アヒダ

○こそ

コソク
井サイ

○こまやの

メイ
サイ

○ことさしに

ワザ

○こそ

云 何れおもあはれきりを取立てるものとすこと
云 俗小キツトヨイおど云キツトの心

○るにあさる

オトガメ
ニアフ

○云
まころろあひ

云々ノ
ジセツ

○ころろあせ小まき

耳ヨリチニ思フ
宇治拾遺オスエタ

腰居 ニカガ 井ガリ 著聞集 ○木居 カ 鷹の本小居

○こせきささ ワザ ○ことささ びさり ガワ

トガテ シイ ○こせきで モソクイヒダス ○こちり 葉及赤染衛門集

アコックトシテ井ル こちあををささとい ○こころ ふまげーをけーかきうとつがぬー

うつくし キガヤ ○こけむき コチガ ○こ

とふーにて サシイ ○こはぐへ ハニル 老人のあと

○んをさかー ムフレ ○こは

とる 共小回まわてこい本々木をまきりこあすを

○んげささ 心中小とりつろ ○事 ひの用まする

ぞともふく 何ゆモ ○これ 雨雪

の楯をうく如くふるをいふ

え部

えあ〜ば 一通デ ナイ ○えんえ フウリ ウナ ○え

んだつ アキヲヤルモ ツタイツケル えん小おをばして の女

身タレナニヨク 上そ不 ひいておとけぬると云 ○えうず フゾム 要の字此 字モトムとよめり

○えせもの フラキモノ ハチモノ ○えぶの身 古今長 哥にえ

え〜り 留浮の身 ○えさ〜ぬ云 ノガレガタナ イミミ ヨンド

コロナ イミミ

て、部

てあ〜ひ ムダ ガキ ○て〜うど 道 具 ○て〜が

調樂之樂の く 云 ○云 云 て〜ふ イミト 云 云て〜ま

を ミミとい ○て〜うず 調するこ コミラヘル 衣服を ○てつ

つ フチヤウホ フ手推れ ○てさざり テサ ハリ ○てあが 給任 ニン

○く〜父 手ム ダ ○てずさこ 手ム ダ ○手もたゆく

手ノ文
イ位ニ

○おもすまふ

手モヤ
スメズ

あッ部

あア

有時ハありのすさび小ミハ存生デ井ル之哉
思ふ人ハありやあやとハニメデ井ル

○あぶ

すはあ
かもん

○あさけ

朝明

○あさい

アサ
子

○あがふ

あハハ争ふのあり小同
からへー

○あま

て云

親しきなるまじく俗小まよ同キ事あり又
ワバエルホタエルの心もありあまハ甘なるべし

○あ

らまー

行末ノ
心アテ

○あかどめ

二へロカ
ラカ子テ

○あそびがき

アソビ
アヒテ

○あこ

仇くきま又人よ
疑する悪人

○あごこ

うハバのさまたげり光
笑のふくまのとほし

あごこ人

レヤウ
ワル

あご物

意の如くさうま
くもろきあこ

ウハキラレイ
イタウラクニイ

あごま

上と似
る云

○あごじん

外ゴ
コロ

○あ

いざれり

あまじり
様とほり

○あまじり

セハチ
イあり

のあて
う、赤洋

○あさき
レフオスル本ハ多の餅をふるふん故
に地ヲアビヤケテ物ヲサガスゆも云

○あさくひ
ロ

○あさづち
メウタム
レヤウ

○あ

さる
ザレルシヤレルあざけるあざむく
あざあふあざあふのあざは同

○あざむく
マダ

スアチ
ドル
○あさきさまに

ツイチヨトカリソメニ
キハハのあさきさまに

あさきめもせん

メヲハナサズ見テ井ル志ガ一の夜よそ
へ目をうつれをあさきめとつふべし

○あさのは
シイくらまびす
あさを制する

○あさけし
ロ

ウコイフジツナ
あつく滝あり

あをのくに
キナレニ志こや
あをぬさまに

○あハ

あえし
ウミミ
ガチイ

あをむ
サ
スル

○あちきねし

ムヤクナラマチ
ヤラチモナイ

○あまびこ
天ノ山彦
とハ列

○あいきや

う
愛キ
ヤウ

○あさむ
キヨウサマアキレル
感するゆもツふあさむがら

あさま

キヨウノサマタマチ
ヤアキレヌチヤ

○あさす
ソデ
ナイ

イ、ヤナン
デモナイ

○あふさぎるさん

一方ガヨレバ一方ガワル
ウテとツふんの詞あり

上の發語を替へて。悲しむべき事。憐むべし。又
ハ羨望すんき。感ふた。をさして。又

アミガ
キドクナメツタニ
ナイガラレジヤ
○あざろ
退散スル
あざれあ

○あざら
アツタ
ラミ
あざら

○あゆ
アヤカル
あえ
○あえお
アヤ
カリ

○あせむ
水はつハ常あれど。色のさめぬ。小ものかハ
らぬ。もつり。心も色も深し。浅し。と。之を

○あざや
アツキリキツカリあり。ざや
あり。ありハあり。の。こ。ろ。あり

○あや免
ワカチあやハモヤウ。漢語の文章。又文理。あや
ありハムチ。あるもの。さうひ。ロウ。ちの。お。た。が。如。き

あやめもろく
ニツクラデ
ワカラス
○あやあ
マイヨニ
チワルリ

○あや小く
○あな
○あとな
上と同し。細く。あ
れ。り。と。云。が。如。し

○あかい
キハ合セ
ヤウス

○あさ
アサ
ワテ
○あさ
アサ
ワテ
○あさ
アサ
ワテ

○あゝつま

シカヘレ 宇治拾遺云々今俗
アタニと云ふも此のこゝを

○あゝた

まる
レニ規ニ
カハル

○あふゆく

エシ
スカニ

○あきれ

て
トハウニ
クレテ

○あつのはし

ムツカレイ アツクロレイ
ウザウワトシテウルサイ

○あひこちか

世俗小 アイタテナイと云
れあり 源氏物語孟津抄の依

○あ

やまろ
エソコ
ヲフ

あやまろす
云

ニチガ
云ヒナク

○あ

やまろ

源氏物語いづはん地もあやまろ
と云ふ地をこちふといふ小同ト

○あやの

る
あゝゝ寝ずるまゝあやハ福津目を
あやつびともいふあやのこゝろあり

○あがりゝも

世
代上

○あけぐれ

あけんとてハまづく
らくかる空をいふ

○あ

こゝろ

あゝゝろともいふ思あまうて堀の力をををれ
スハ別のあをををれまじいありくををいふ

さノ部

きれらふ

オナブ
レル

○さるハ

サテリ
レハ

○云
云

其上云く一テ
又俗語と同じ

○さゝぬ云

不避ありえさゝぬとも云
ヨシドコロナイニ
○又さあ

らぬく
○さかいら カレコ
ダテ
○さうぐい まのあ
うりの

其外ノ
ふちり サレムカシ又ナシダグムを
○さいあむ 折檻スル
シカルセ

ムガ
○さだ 定まり
コレパン
○さどすれり 程ガス
ギタ盛

ヲコ
シタ
○さふらふ 井ニスル伺候メ井ル御前ヲツトメル
本ハきもらふみて見合セルとつゝ俗

語の心々夫よりしては用もあらんやと伺候して居る事あり又
轉して目上へ對して我身の居りありといふ事をいふ細とあり後
中をけりといふと
○さうぞく さうぞきてと添く
細字音をさうぞくか

装束スル
○さばらの 髪のすくちくま
むらゝるを云
○さ

あり
勿論
○さうに 事改メテ
又子カラ
○さご 云々
のさ

ガハミミノナラヒソレニツ
ノタクセシ又アタリニへ
○さごのふ 物ツひさかふハ
ロガワルイロヤ

カレノイ
○さく 俗小サ
クズル

又コレヤクシタ
○さく 云々

れを 春されをハ
タされをハ
○さうとも ヨモ
ヤ

○さこりやの サツハリ ○ささち 云 ワザトニ云 キツトニ

ふりてえと さびくしあり。一事なしぬ ふりてえと ○ささ さびくしあり。一事なしぬ

○さこり ヤウダイ又今の俗人をさして様とつふるハ屋形様

西園寺様と見えたり。は様かえ様。まも様。又迎。 公方様などいふより。サリ。さ。廻りて。古くハ増鏡丸。 ○さこり

すれ 出ス ○さこり カレコイ又サウジヤと

れハさハ サ、 ○さく免く サ、 さくめごと

サ、ヤ キゴト ○さくやう キウコリ ○さくが小 二ツ

とも小きくのま キヤシヤナ ○さバ さあ ○さづれ さも

をあれの ソニナラ ○さく いそぐさまこ

らきたるあり。どうはらうの 騒ぐどくハどりの活

てさ シテド ○さぞ 俗小云 云 云

さぞの ウヂヤ ○さす 俗小云 心小あ

らず。本ハあつゝもづゝと同一類
うゝ。ささこを指さるる類也

あざこのあを者
きんこくをさ

シヤ
レテ

○ざれて
○さよ
○さぬ
男
女

ともぬすむを云。さよさぬの
類のさハ。まゝ同一の類也

○さりり
サレツカ
故障

いづころ
辨つ頭あり
先ダツテ

○さるやう有て
子細有
テ又あ

る極と
も云

○ささえ
○ささく

張るゝまぬのまの
ささめくささ

○ささる物有て
ささハ勿論ノ物ト
ノテオイト

○ささむのふ

ソレホド又ソレギリ又形ノ如
クノちくちくささのたまり

○ささま

よふ
ツブヤキナガ
ラブラツク

○ささを
正書あり
マツサヲ

きん部

きこゆ

申シ上ケル又申シ受テといふをきこ
えてとつふ。源氏あげまきふええり

きこゆ

云こゝなるといふは同一俗。オアガ申ス
又上ケマス トメマス ちとつふ 申スニス
ふ同ト

○きこくし

際こゝ目立テキツトシタ
る。又ハちくトハキツク
きハヤ

の上ふ 同し ○きハ 身分 ○きりくし 美し 立派ナ

きりめく ハダニ ○きよら イキレ ○き

ら きーアあふ ○きあふ ハリ ○きそふ

上ふ ○きびえ 幼 ○きさふむ イヤレ

○きこえん方あー 何トモ申シ ○きすく

あり すくよくと同一ヤス ○きよまは

る 清浄ニ ○きやうざく デトガヨイ 警策 詩文

物事のすぢられてよ ○きこえい

あむ 御辞退 きこえんかへき ふも ○きく志

れご カベツ ○きげん 機嫌あり レホ

きと 云 ふとく い ゆる 初 驚 く やう か ○きえんの

へる 死入ヤウ ニ思フ

ツニヤシ とち る る ん き ハ 永 れ

の句のよた る や れ し て

ゆ部

ゆ免

云 カナラ
ズミ

○ゆちひのひうたらく
とく

○ゆ

きかふ

行かまけん
ユキチガフ

○ゆふつけて

日暮ニ
ナツテ

○ゆ

ゆし

大切ナルコト 犬ソレタル事 あやふき事 ちとふはつふが忌
忌あり。さるゆゑふいふと。きんもあり。又すぐれたる
ゆをも云付。ナニカラヌ
ヒドイ エライの心あり

○ゆゑづきて

ありと
よご

ゆゑづけて

ゆゑづ
せて

○ゆゑくし

うら
と
云

○ゆくて

トホリ
ガケ

○ゆるまかふ

フイ

○ゆ

くりなく

思ヒガケナ
クフツト

○ゆゑの

委細ノワケ
又あひあり

おん得のあふ

○ゆるくの

ユウ
タリ

○雪恥の志

う白

雪ガアキレル位シロイ
雪ラマカス位ニシロイ

○夕むえ

花もても男
女の良みて

も夕方小色の
まさるをえ

○夢のたぐち

ユメノス
グミチ

○ゆする

髪あふ湯ゆするまかる
まオグシアラハセラレル

め部

めざまし

心のうごき目のまむる程のまをいふ
アキレル
イカシイ
シングワイナ

○月や

まー

見ふくかぬ
メナガナイ

○めやきん人

ミグルシ
カラヌ人

○云 云め里

下ふつてふま
ヤウスヂマ
ー
ー
ト
ニ
エ
ル

○めろし

一方よりおをえくとも目やて
又こちをえくとも始るあり

○めでたし

ウツカウナ
ウツクシイ

○めくハ

メゼテ
シラセル

○めくー

まーの
ー

○めづ

愛く買見
ニオモフ

○めーうと

オテノカ
カル女甲

○め

牛小後つゝる

著聞集よりえさりあなどりゆじん
ふ小あひさるたとへよりカセ犬ニ手ヲク

ハレタと
ハレタと
ハレタと

○めもあやあり

すくられて華嚴あるも
手跡の又さあををも

云三ルモカ
ハユイ位ナマ

○めふるめどろふ

存生デ月日
ヲ立テル

○めもはるふ

目も遠く見渡したる
かぎりの度きを云

○めくのれど

めかきせす

目ハナ
サヌ

○目をそむ

不和ふ
る中ハ

顔を見合するゆゑに
目小のこゝろをいふ

みの部

耳やすし

耳小のちつとをいふ
ナイ評判がややすしの後

○こやづ

え御奉

○こやび

風雅、
ミナ

○こやびを

風リ
ウ

○こやびのちり

品ガ
エイ

○こぎのし

位の言
かぬ

まも
いふ

○こむとくむ

種老を腰膝
のかまると

○こむとくし

子細ラ
シイ

○こづゆふ

ピンツ
ラユラ

○んをやす

ホメテグリ
ガラ見物スル

○んおとろす

耳及レダ程ニモナク見
テハアイソガツキル

○こぎの里がし

ラリチヤラチモチ
イラツシガナイ

○みド

ろく

身動きする
ムズツク

○みくのし

ヤカマ
シイ

○こさを

行儀
タテ

○こさをつとる

キツト守
ツテ弁ル

○こさをふ

シツトシラ
カホテヘイキテ

○こさを

水

○こ

をづく舟ノ通ルニシテ
○ををつくイノキ

又ハ世のかぎりといふよ
同ー一生ガイ死ルマデ
○こがら水ガク
○こけ宇治拾遺

たむ内主ノホドヲオウガノヒ申ス
○こさ宇治拾遺

ふ声又衣の水
小ぬるく食田小水ヲカケル又庭など小じり入る
○こづ庭など小じり入る

云
○こづくナジム源氏紅葉集より

つく小田コランジサタメヲ
○こお源氏

○こけまコゼシメシアガル
○こ苦係小ワ小田又見ル目ガ

笑止デキノドクアト
○ろ出産するあり身ニツニナル

○こそナイミツ
○こぶ皆ふくしん
○水ノコラズ

せき入川をせきて水を流
○そ道モ世

道一パイニ
世野もせと同

志部

志めやの

シツトリと海するハ人の有様心ヒツツリ又
シツクと海するハ時并ありシツホリと海

するハこそ
まざちあり

○志里うごせ

カゲ
グチ

○志る

俗語の
この外

小ハカラフ
スル領知ス
あり俗もモカシラ又

○志くず

俗語のこの外小カ
マハ又とワムとある

ふどつふ時ハ
ツカハシウ
ガユルセ

○志づんか

志づんか
セハシナイ

カクスカケル
ガルシタフ

○志くか

シツカリ
このめ一花

○志の

バカ
モノ
取シマ
ラヌ

○志れ物

○志づく

水中小漢ル
ことあり

○志どけあ

装束するを
どくとワハ

○志ふぬ

新字一きあり
わをそへて
お話の

ウニゴシナ
セテとワ

○云

此て小の
折一をスハ
折モアラ

とらとくの
きハむる方

○志くむ

物中
むら

とらとくの
きハむる方

○志くこら

す
ラカス

○志くむ

子
らとワ

○志る

兼ぎん。兼枝ありて明白ある事。兼ていひ思ひ
しゆのたぶらぬをさるるいひ。さるる思ひも

志るくあどつよゆ。飛語
の驗もかま同し詞あり

○志とくに

○志

めやぐ

レホタル。あや
この活きたるし

志める

上小
同し

○志む

我
物

と戦領
すこ

○志とど

古疾あり
ロバヤ

○志ゆく

フセ
ゆく

○志ほどく

あやこしく。衣の志ほどしたるを
あどどけし。源氏ありし。小又也

○志

志る

シリスホマリ
源氏梅枝巻

○志の小

○志を志む

タコズレ
がアタリ

○志なる

キウメイニスル
コラレメル

○上はめ記

たつと

貴スラ
ニイ

○志く

折ツク
志
きりく

志部

志ひ志れて

ヨヒタ
ボケテ

○志ん

フリクイフ
怒ずるあり

○志つが小入

保元物語小又也。
俗小ま小同し

○志ひ志れ

酔て
おげ

きこつふをナキ上戸
と甚しくふあり

ひ部

ひとすら

マニガラ
ムシヤウ

ひとこら

ヒト
スヂ

ひ

とこら

ひとこらともあり。申すんあり。
又入笑をせもあへり

○人だ

のめ

ヒトダマシ人を小思
もれるのこふるを小

○ひぐらく

口を動かす
口タク石

川雅望云。舟をうご
かすもつふあり

○ひとふるに

ヒトスチニ
ムシヤウニ

ひと

ふるん

一筋ニム
イキナ心

ひたふるんある物

ムホフモノ
ワサウナ物共

○ひきざこ

支の封じの
のま

○ひとこら

外聞ワ
ルイニ

ガル
レイ

ひとふく

ミグルレイ上小似る細
くられハ姿形のこをワ

○ひと

ざこ

一段
○人をえす

人ソバエス
ル枕草紙

○ひと

ひとり

トチラゾニス
タレソヒトリ

○ひごもの

ヒン
ブツ

ひごひ

が

ヘニナタ
チダヤ

○人ぎくやさ

世間ノオモ
ハクガハツ

イカシ

○人げあ

身スボ
ラレイ

○ひとま

〇七十

引る子をよ
こことと

○ひそむ

貞レカメルベソカク泣
がや又最良のさまこ

○ひ

くやごもる

ムレヤウニ
引コモル

○ひそむ

オヒ
ハギ

ひ

くね 上小
同

○引まさぶる

引のふ
こもこ

○ひと

つむき免

獨ム
スメ

○ひざる

非常之法外
か
るゆふもり

○びさる

美相ふーの優美
の風の多記あり

○びんあし

フツガ
フナ

びんあし

フツガフナび
んハ便あり

○ひきく

ゆ

やうこのふ

まさま

○ひすま

石川雅望云よづれたる物を洗ひ
又ハ浴室かをとをも掌の者と想ハ

る禁秘抄の
又えり

○ひづ

ビツタリ
又レル

○ひし

云
きび

ゆるこちき熱いびーとんふかふるあどひ
又襖の敷をひりとすけをど云と始同まこ

○ひし
足
音

のトシとす
るあどひふ

○人や

我心よりハせん人よ
ひうきくをよ

○人や

アまあび
のまぬみま云

○ひと

格同

○ひたら

かよひまき格
エウチナ

○ひく

ヒガナ
一日

○ひ

とい グイ ヲツ ○ひととせ 先年 ○ひとと夜 先日 夜

○人が 俗語 同 ○ひととけ バツトメトリ ミナリガナイ

○ひ 直のまゝむうひ ○人ふ 直のまゝむうひ

○ひ 世間ナミヲヤル ○ひととら 獨グチ キク

○ひぢ ニハカ雨ハ袖をうさ ○ひめれく 日ニヨクニナワタ 月ノ蝕をとらふ

○ひめ ニハカ雨ハ袖をうさ ○ひ 日ニヨクニナワタ 月ノ蝕をとらふ

えと

も 部

も アルヒハ又ハ漢文読小 ○ 是をもーくハと

ひ シモツ ラカシ ○ トリアツカヒ トリムケ アシラヒ トリ立ヤウ

○もて トリアツカフ トリナス トリマ カナフ 又其ふりをするをも云 ○物 カナフ 又其ふりをするをも云

か ラチノア カヌミ ○物の便 みクツ イデ ○お

思ひまねる人

物事ヨウガ
テニシタス

○云云
云云の成

ルナ

カ
○ものす

何スル何と定めざる。前後の事体小
て人のおのづから心得らるる。但し國小よ

望てハ今小て
も物として

○もの

左様小ハあるまじき事をと人
を恨むる。この如くイカバシイ

ドウヤラシイ 物と思ハキザハリニオモフ
あり。物としてを自サハリニオモフあり

○物

モツタイガアル
ゼニメガアル

○ものじし

心ガス
又イヤキナ

○もの

むつもの

ムサクサト
シテ井ル

○もよやす

サイツ
クスル

○ものけさ

ゼニメガナイ 位ガナ
イおじのく

○もの

けて

人の事をいつ時ハトリタテシコシテ 我身の事を
いつ時ハタシテコソツ、シンドテ又ハモナコシテ

○も

どく

ア、デハナイ
ト批判スル

○もどか

イカバシイ 俗小ハラ
チガワカヌハガユイト

つゝふふのこつへど
それ小かぎしぬれん

○もの

子カラハツパリ 漢語の全小
あまふ。その字を訓ハあ

ら
○もぎ本

花や枝葉をを
づれたる本あり

○もれりひさこの

ふ

ロガワ
ルイ

○物あづむ

チニ
ジ知

○もろ

とろも トモ ○もあろ ニツタ
タナカ ○きりめけ

ナシヅ、
タリリ ○物のひめ君 ドコブノカ
ヒメサニ

せ、部

せのい バシヨ世中
世間一メンニ ○せめて 俗小云同きりもあろ
又近くせまろん又あひ

てがせイヲ出 スんもあり ○せくらぎ 小きく浅き流れ
ありせ、ナギ ○せ

せ 兄、世人
と云ふ ○宣旨がき 代筆 俗小カホセカ
キとツもあろ ○せ

うそこ 書簡口上
アナイ ○せうえう ユサニ河せう
えうハウチ殺

生 く ○せちに シキ
ツテ ○せ 川の森小譬へて場所時
節等をツ事あり

○せんすべあ シカタ
ガナイ

す、部

すじろ ワケモオムサトシ
タリヤメワサウチ すじろ ムサトメ
ツタニカ

モハズシラズ そろろ すじろく あまりメツサウあこり
あ小がーをぢらふん

すむろはし
ムサトア
ハレナ

○すましくし
ス丹キヨ
ウラレイ

すねのほし
上小
同一

○すまこもれ
好色人風流人
すべて物ずけ

ある人
をよ
○すまきり
ス丹キヨウワ
ガモノズキ

○すく
色ヲ
好ム

○すねたるある女
色ガアツテ
ジダラクナ女

○すくよこの
氣丈夫人の心

ツシヤレトシテ井ル
シヤツキリトシテ井ル
のこはきり又ハ山のけはしくきりてたすやうあるをも云

す
ズン
スト

とよけん
シツカリシヤン
トシタスキレツ

○すくくと
ズン
スト

○すまあふ
シリコシシシタイスル又隅を小盾小取て
人をこばと敵對するんハ俗小もつ相也

のこ
板縁 上古ハ簀子あり一ハ小さ
ウぬ世小ありても格ツあり

さび
ス丹キヨウ
ナクサニ

○すさめげ
賞罷せ又 駒もすさめげ
かる人もあし又人小足す

てられさるふをすさめられ
さると云ハ後小結トたるあり

○すげあふ
ムタ
イニ

○すぎく
次ハシダクニ
ハユクニ

○すさまじ
不與ナフ
キゲンナ

○すぎくし
テキハキ
キククト

○すぎや
○七十

の ソク サツ ○すじし オソロ ○すれかげ 透間より

又ハハ籠などより人 ○すくせ 宿世ノアトノ世 ○す 又カク明

やつ 其奴の特ニ又特 ○すげむ 何打すげむハ老人の

○すごく 多蟲の草木中とまり地上をあさる ○すあハ

ち 即座 ○すんあがる 盃ガニハル ○すむ 妻と

人の家ノ通ひとまう ○すあどり 魚殺 ○すべて

一同ニ全体 フウタイ ○すくけて スハ ○すべす スクハ衣を

てスヌク たくかの肉 ○すべ里いづ コツソリ すべア

良をぬきすべし コソ ○すべか せんすんか コソ

雅語譯解

近刻書目

離屋先生著
雅語譯解拾遺

嗣出

同
玉小櫛補遺

此在大人乃海氏お決の注釈のものを
るを補へるなり

同
言語四種論

此乃口述小列きたる
論なり

同
離屋學割

此向の大言ん海等をせり
る書あり

加藤磯足先生著
校異土佐日記

此本異同を校訂して傍注并改書と
くこへらまゝる書あり

